

業務実施方針

業務の取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項（様式—4—1～4—3に記載する内容を除く）、その他の業務実施上の配慮事項

学校と地域社会が連携・協働し魅力ある南部地区職業教育拠点校を目指します

業務の取組体制

■関係者の意見を的確に取り入れ、設計に取り込む

- ・両校関係者一人ひとりの新生「南部地区職業教育拠点校」への想いを具現化するためのパートナーとして、相互間の信頼の上に築かれる対話を基本に、発注者並びに学校関係者、教職員・生徒などと協働して満足度と完成度の高い設計業務を遂行します。
- ・「両校の再編統合に係る報告書」での魅力ある新たな職業教育拠点校の設置として「学校全体で『地域ブランドの確立』を通じた地域振興の貢献を目指す」目標実現を目指し業務に取り組みます。
- ・「大河原地域における高校のあり方検討会議」での検討内容等を十分に理解し、発注者との綿密な意思疎通の基、基本から実施設計へと発展、反映させます。
- ・業務開始時には基本設計上の課題や与条件を課題項目にまとめ、検討項目の決定時期を整理したロードマップを作成し進捗状況を発注者と共有します。
- ・業務の各段階において適宜行う設計レビューにより品質管理・コスト管理に関するマイルストーンを明確に設定し、確実なスケジュール管理を実施します。

■基本・実施設計スケジュールイメージ



- ・発注者の意向や業務フローを確実に実行するための意思決定を行う全体会に加え、個別の課題を調整する分科会を適宜開催します。
- ・業務の設計検討において、造成計画や周辺地域を含めたパースや模型を作成し、設計意図を伝達することで、問題意識の共有を行い、迅速に解決策を導きます。

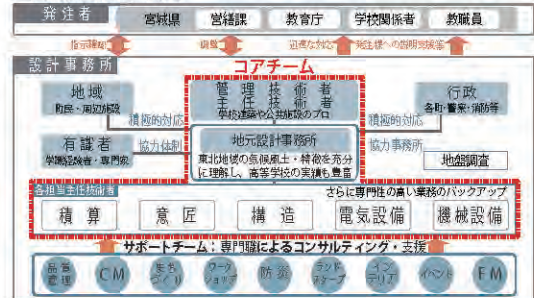
設計チームの特徴

■地域とのつながりを重視した設計チーム

- ・コアチームの高い技術力とサポートチームによる幅広い調整力を結集した総合力のある担当チームを速やかに立上げ、業務着手と同時に本格稼働させます。
- ・コアチームは、管理技術者を中心に、学校教育施設や県発注の高等学校設計業務など設計実績が豊富で官庁官繕事業を理解した技術者により編成します。
- ・サポートチームは、設計の品質を管理するISOの活動（教育関連の学識者や建築・環境関連の各分野の専門家も参加）により、検証と妥当性を確認し、成果に結びつける連携体制を確立しコアチームを多角的に支援します。
- ・管理技術者は担当チーム全体の円滑な業務遂行のため、品質・技術・デザイン・コスト及び工程管理等の多方面にわたる総合的管理を適切に実施します。

- ・地域の気候・風土や経済状況に精通した各担当者は相互に緻密な連携をとり、技術情報を共有して効率良く業務を推進します。

■業務実施体制図



特に重視する設計上の配慮事項

■安心安全な将来も見据えた学び舎づくり

- ・ユニバーサルデザインの考えに基づき、誰もが安全で安心に過ごせる魅力ある学校を実現します。
- ・災害時の避難所として、町民と生徒教職員が共存可能な校務継続性(学校BCP)と安全性を確保します。
- ・大河原町ハザードマップから想定した校舍階高設定とキュービカルや自家発電設備等の設備機器基礎レベルを設定し浸水被害の対策を講じます。

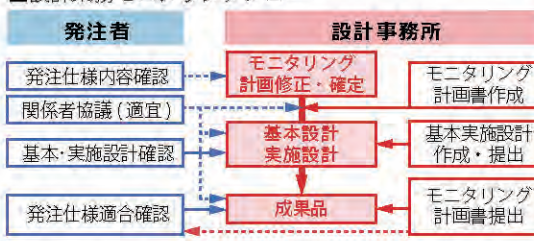
- ・建設コスト削減策立案、基本設計段階でのコスト検証、各フェーズでのコスト確認を的確に行い、予算内での計画実現を実行します。
- ・LCCの削減、維持管理が容易な計画とし外構等も含めトータルマネジメントを徹底します。
- ・地球環境への配慮を重要視し、環境共生を図るとともに人にも優しい学び舎を目指します。

その他の業務実施上の配慮事項

■品質の高い施設実現に向けた設計プロセス

- ・本業務は、両校再編であり設計や施工が長期に渡ため、確固たるコンセプトと理想の共有化が重要です。新校舎建設並びに建替え計画、既存施設との連携等の問題点や課題を早期に抽出し解決策を提示します。
- ・設計の品質管理を行う上で、基本設計から実施設計完了時まで実施要綱及び仕様書等との整合を確認するために各段階毎に「設計業務セルフモニタリングシート」を作成し確実な業務遂行体制を構築します。

■設計業務モニタリングフロー



# 恵まれた学びの環境を活かした、これからの【地域ブランド】を生み出す「南部地区職業教育拠点校」

設計基本コンセプトで掲げられている5つの項目の実現に向けて、次の基本方針を定めます。

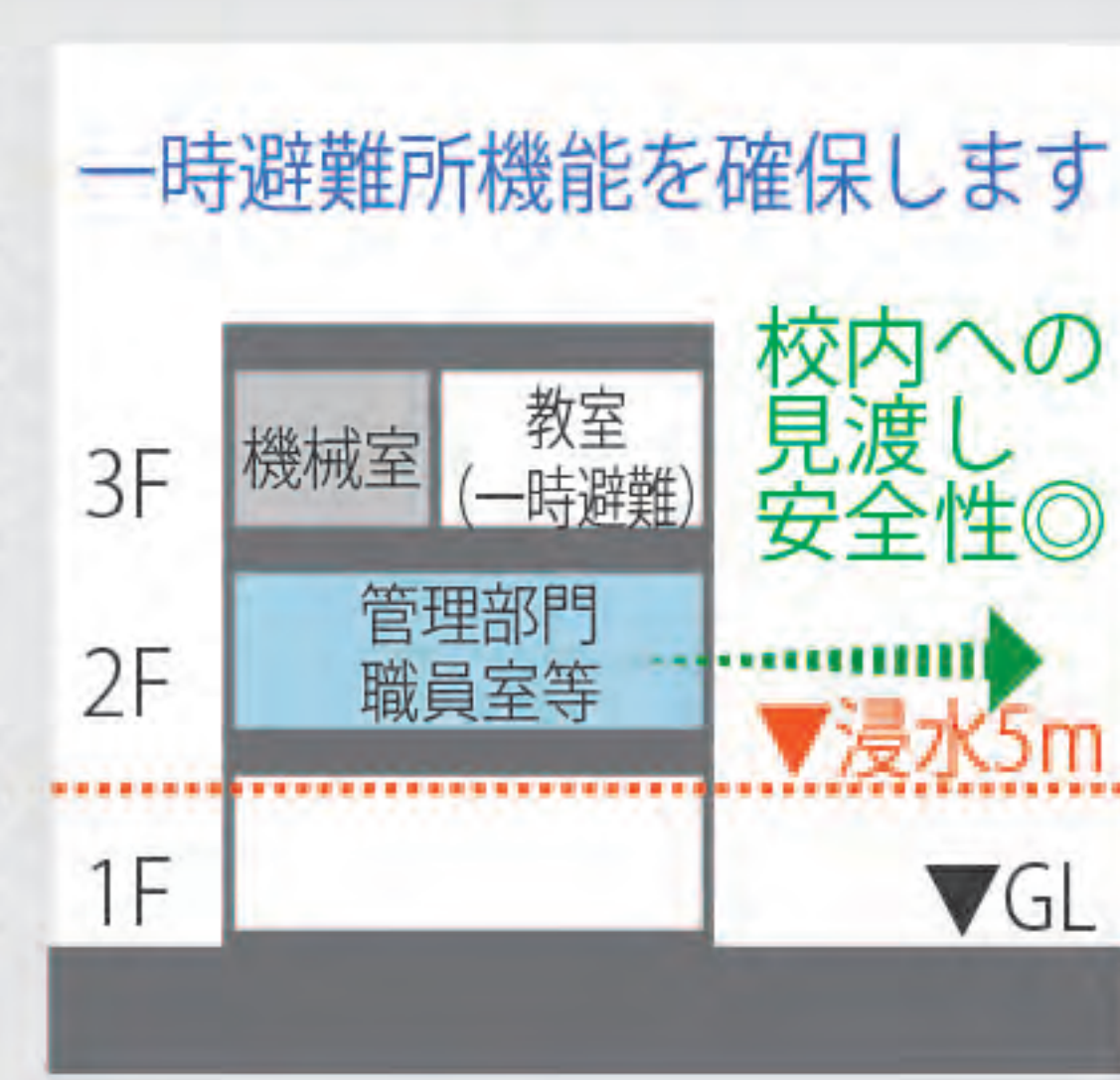
## 1. 機能性、連携性、利便性を満たす建物とする。

広い校地の効果的な機能連携を図るためには①エリア内の新校舎の配置が重要になります。特に管理部門と農業系学科の配置が重要と捉えます。更にこの機能が校地内外、建物内外でも効果的に発揮できる建物を目指します。



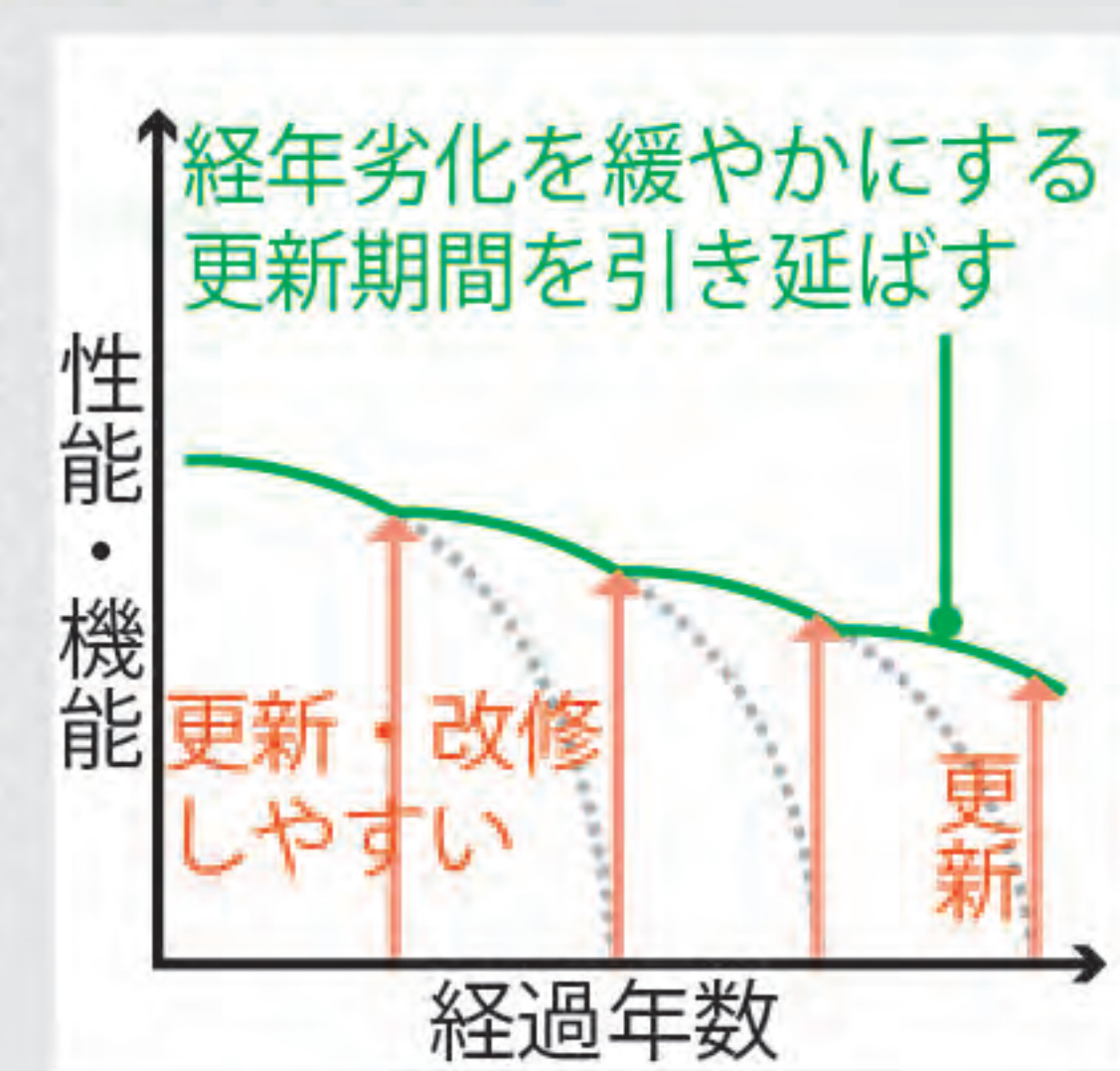
## 2. 防災性能、防犯性能に優れた建物とする。

防災性能、防犯性能に優れていることは学校運営上の基本性能です。このことは、校地内のみならず周辺地域との共存、関係性にも影響します。生徒教職員のみならず、地域住民にとっても安心・安全な新しい学校を目指します。



## 3. 管理、運営、更新が容易な建物とする。

施設の長寿命化実現のためには、日常の管理・運営の容易さに加えて更新性の確保が重要です。構造、仕上、防水性能等の他、設備方式や機器類の選定時から交換・更新を見据えた検討、検証を行い長く使い易い学校を目指します。



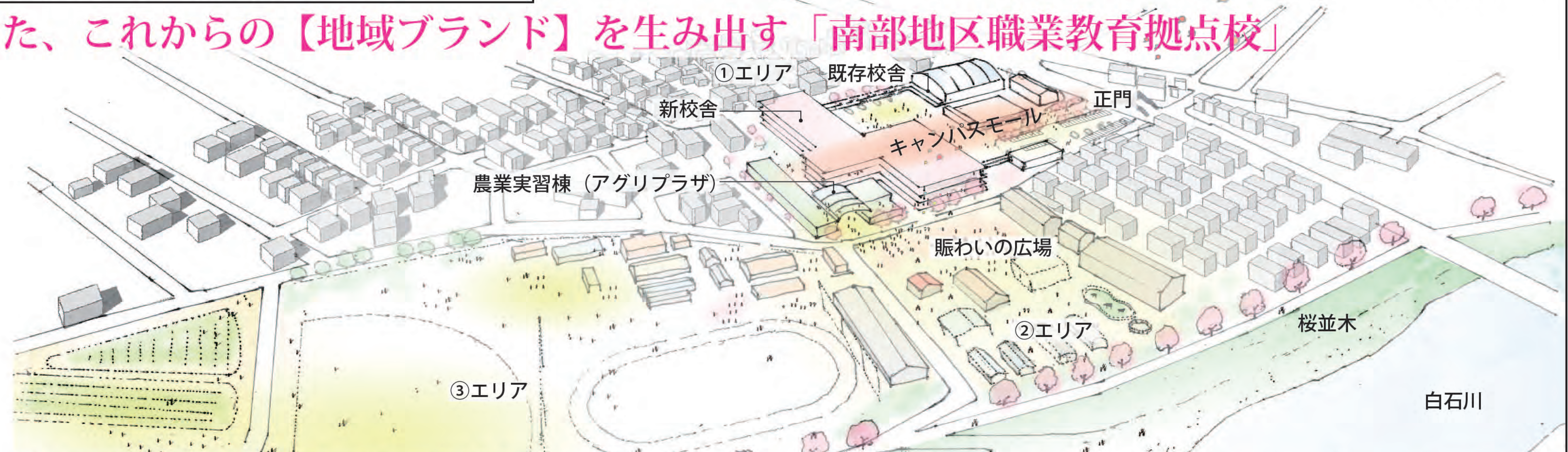
## 4. 敷地内外の環境に配慮した建物とする。

大きな建物であれば、その影響は敷地内に留まらず地域環境にとっても問題です。また継続使用する既存施設の環境確保も課題となります。自己完結的な解決とせず、未来と地域を見据えた総合環境配慮型校舎を目指します。



## 5. 敷地内資源の有効利用を図る。

柴田農林高等学校の校地による事業において、敷地の有効利用はもとよりその歴史や文化の継承も重要な要素です。これは長年地域と共に在った学校の財産であり、より効果的な整備を通じこれからも地域と共に在り続けます。



### ■ 広大な校地の連続性を構築し機能連携、地域連携を図る

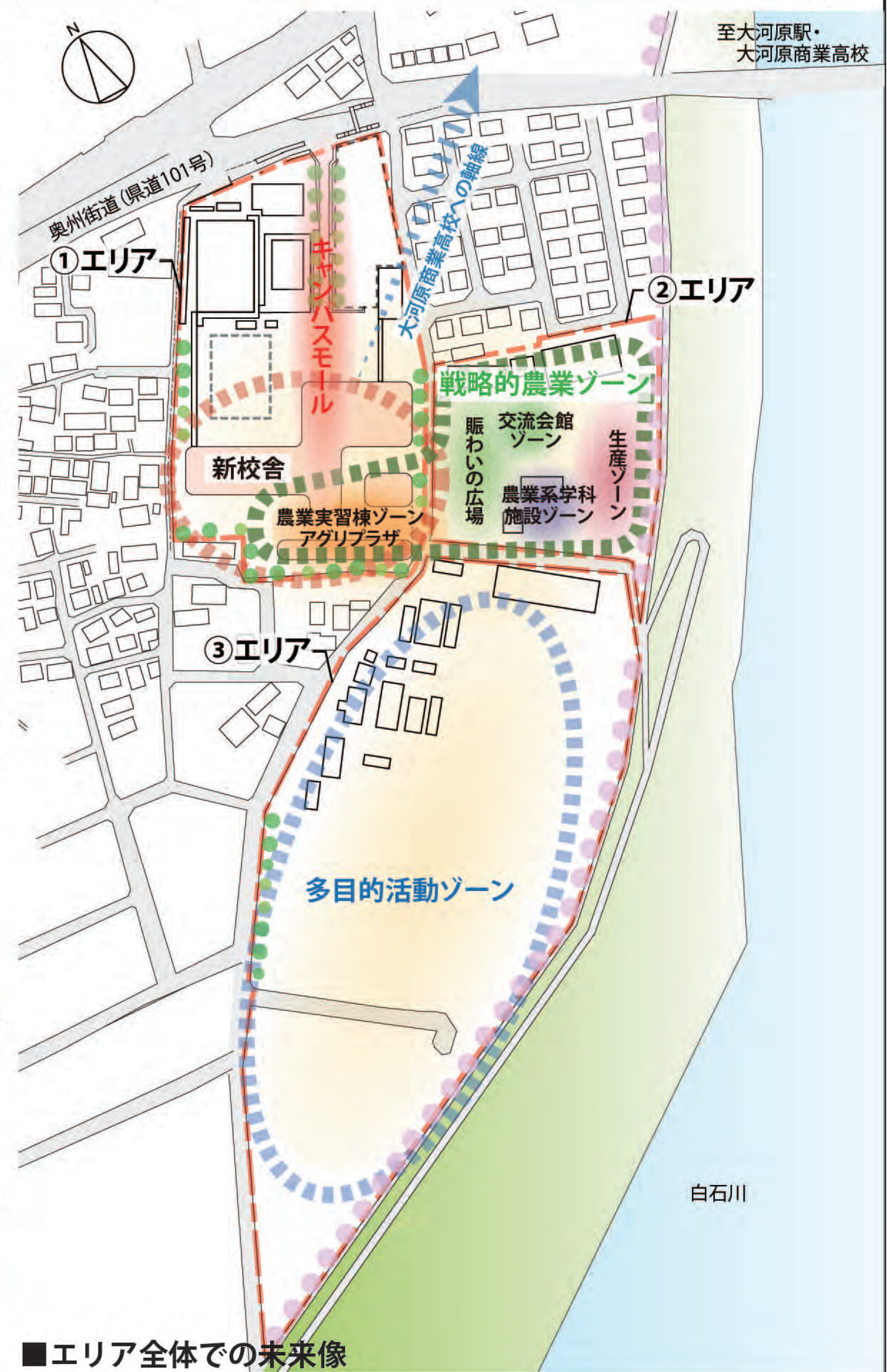
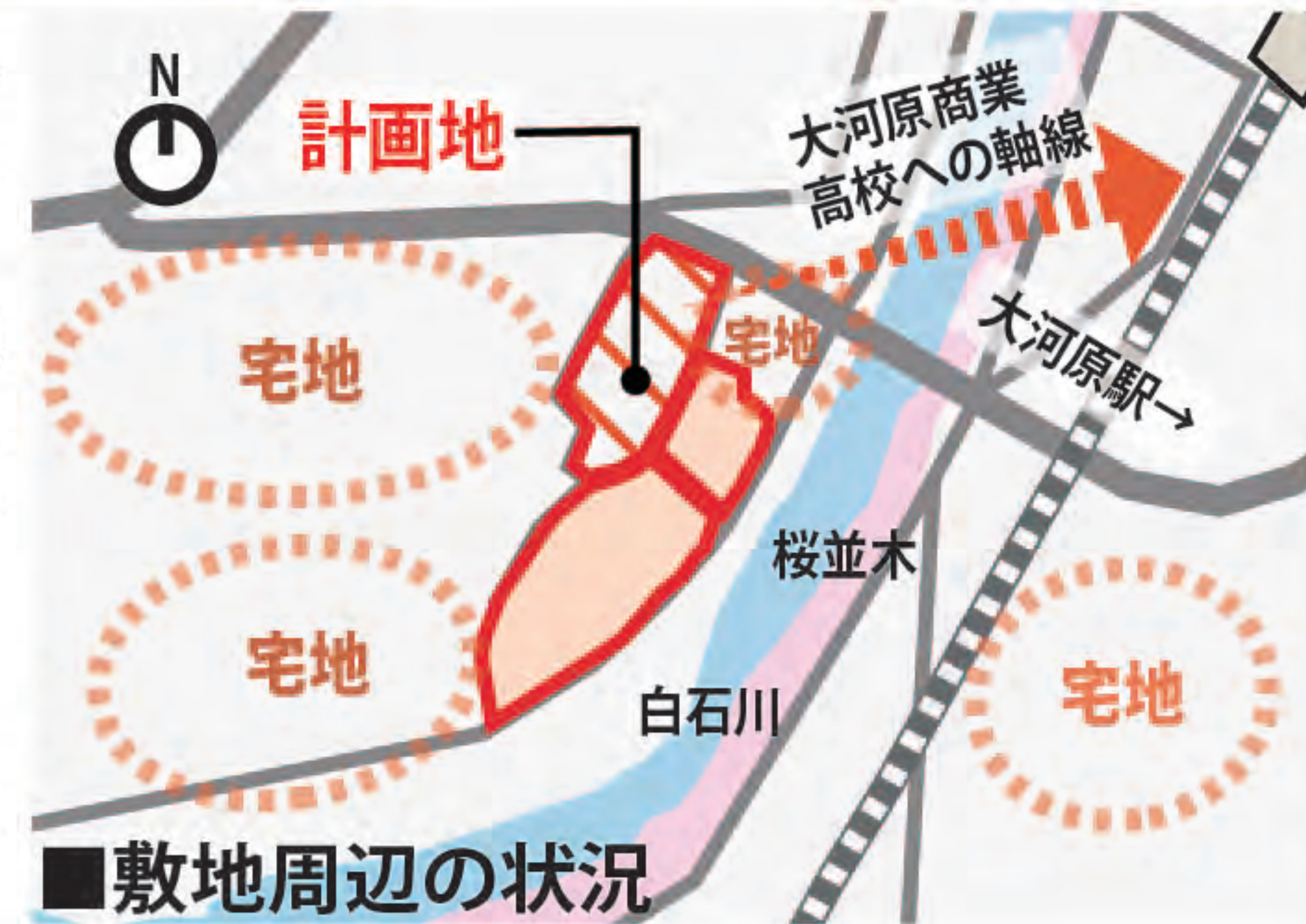
- 3つのエリアの結節点となる①エリア南東位置に、本学の特徴となる「農業実習棟」を配置し、②③エリアの農業機能との連携を図ります。
- ②③エリアでの活動の際には、当該農業実習棟エリアの半屋外空間(アグリプラザ)を経由することができ、アクセシビリティの向上を実現します。離れた農場、水田、演習林からの収穫物、資材等を搬入する際にも、道路脇でのアプローチ動線に配慮した最も利便性が良い計画とします。
- ②エリアの西面道路部分はまとまった空地となりますが、ここは3つのエリアの要素が集約する広場と設定し、学内活用スペースのみならず地域に拓いた場所として利活用します。
- ①エリアでは②③エリアを見通せる位置に管理部門を配置し、広大な校地の視認性の向上を図ります。

### ■ エリア全体で効果を発揮する拠点校の未来像を描く

- ①エリアでは「柴農会館」が、大河原商業高等学校では「おぎの会館」がいずれ解体され、その歴史や卒業生の想いを明確に受け継ぐ施設がなくなってしまいます。一方で②エリアの西面道路部分は解体により空地が出来ますが、①エリアとの連携を図った広場として利活用すると共に、農業科科目実践の学内スペースのみならず、地域に拓いた地域交流の場としても利活用ができ、機能する「賑わいの広場」と捉えます。
- 遠くない将来、そこに寄り添うように現生徒や卒業生、地域の人々が集える新たな『交流会館』が建設されることを想定し、エリア全体の構想を構築します。
- 賑わいの広場と交流会館を基点として、③エリアに広がる農業系学科施設は②エリアに移設、集約します。
- ②エリアの川沿いエリアを生産ゾーンと設定し、隣接するゾーンは農業系学科施設ゾーン、そこに隣接して交流会館ゾーン・賑わいの広場、道路を挟んで農業実習棟ゾーン・アグリプラザと連携し、東西軸で連なり機能性を向上させた『戦略的農業ゾーン』を構築します。
- ③エリアは農業系以外の屋外活動ゾーンとし、大河原商業高等学校で盛んだった屋外部活動での利用や、地域イベントでも利用しやすいまとまった『多目的活動ゾーン』を構築します。
- 交流会館の運営主体は原則生徒としながら、地域住民と協働しての運営を図り、地域交流の拠点でありベースキャンプとなる『地域に愛され活用される施設』を目指します。
- 運営主体を学校から切り離すことにより、より多様性を持った施設整備と運営が可能になり、地域の核となる交流会館は新校舎と連動し、県南地域での確固たる産学連携実践の立場を確立します。

### ■ 地域と共にある学校としての在り方

- ①エリアは北面以外の3方を住宅地に取り囲まれながらその歴史を育んできました。今回の事業実施に伴い、これまでの課題解決を図り地域と共にある学校を再構築します。
- 東面町道は幅員が比較的狭く、日常動線の狭隘はもとより工事時の車両通行についても課題があることから、敷地後退を行い公開空地としてのスペースを確保、利便性向上と安全性確保を図り地域へ貢献します。
- 計画建物はできる限りマスボリュームとならないよう分節化を図り、クランクや凹凸化に努めることにより、既存住宅地への圧迫感低減と共に、地域景観への調和と配慮の実践を行います。

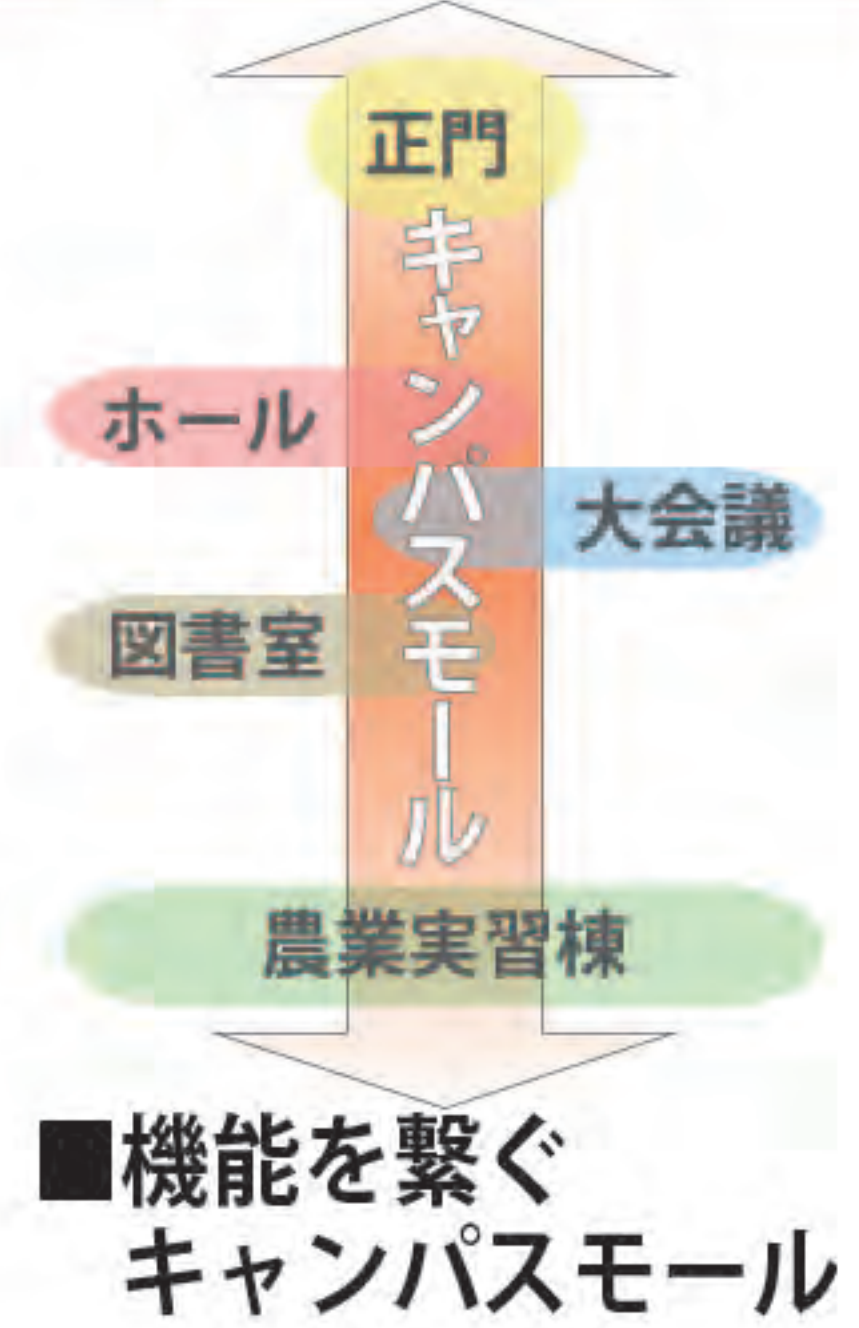


■ エリア全体での未来像

# 新たな軸線【キャンパスモール】を通じて過去、現在、未来を繋ぐ「南部地区職業教育拠点校」

## ■歴史の継承と新たな軸線【キャンパスモール】

- 歴史のある柴田農林高等学校の正門及び南北の動線を活かし、その延長線上に新校舎の「主動線」と「パブリック機能」を集約学年と学科、学校と地域を繋ぐ役割を果たす、**拠点軸(キャンパスモール)**を形成します。
- キャンパスモールの軸線上には「ホール」「大講義室」「図書室」など、新たな拠点校としての特色ある諸室を配置し、学内拠点が**拓かれた地域拠点**にもなる配置とします。



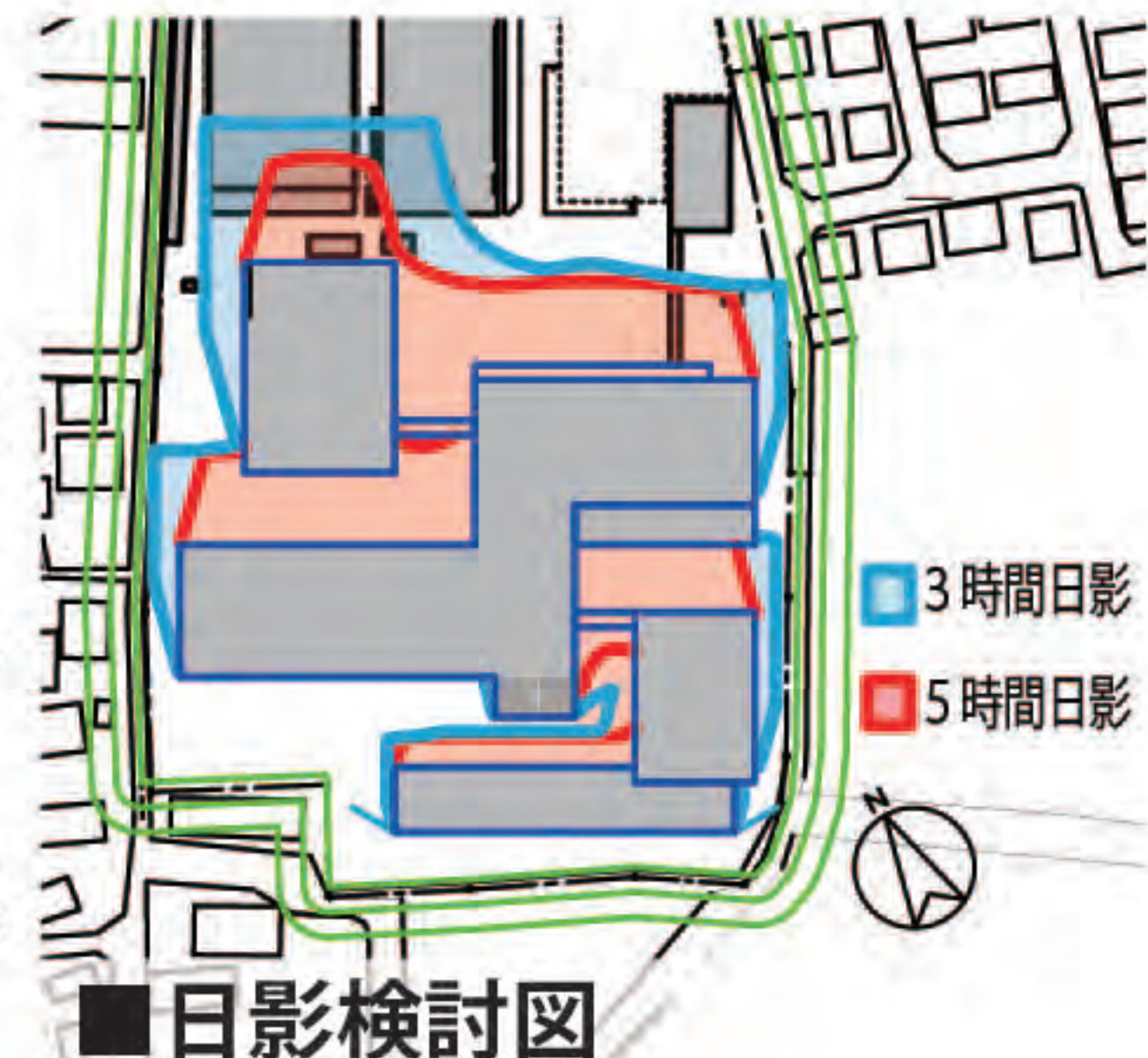
## ■将来を見据えた土地利用の提案

- 来るべき未来を見据えた土地の有効利用を図り、②③エリアとの連携頻度が多い農業実習棟は**南東角の配置**とします。
- 敷地の有効活用と将来計画を見据え、校舎は**東西方向に雁行配置**とします。
- 北校舎解体後の校地は**中庭と駐車場**として整備し、体育館や、柔剣道場の建替え時も想定したスペースを確保します。
- 更なる改修計画も考慮し、プール、家庭科室の建替時は、当該体育館の**北西角に集約配置**が可能でキャンパスモールより**東西側に明確に機能分離**を可能とします。



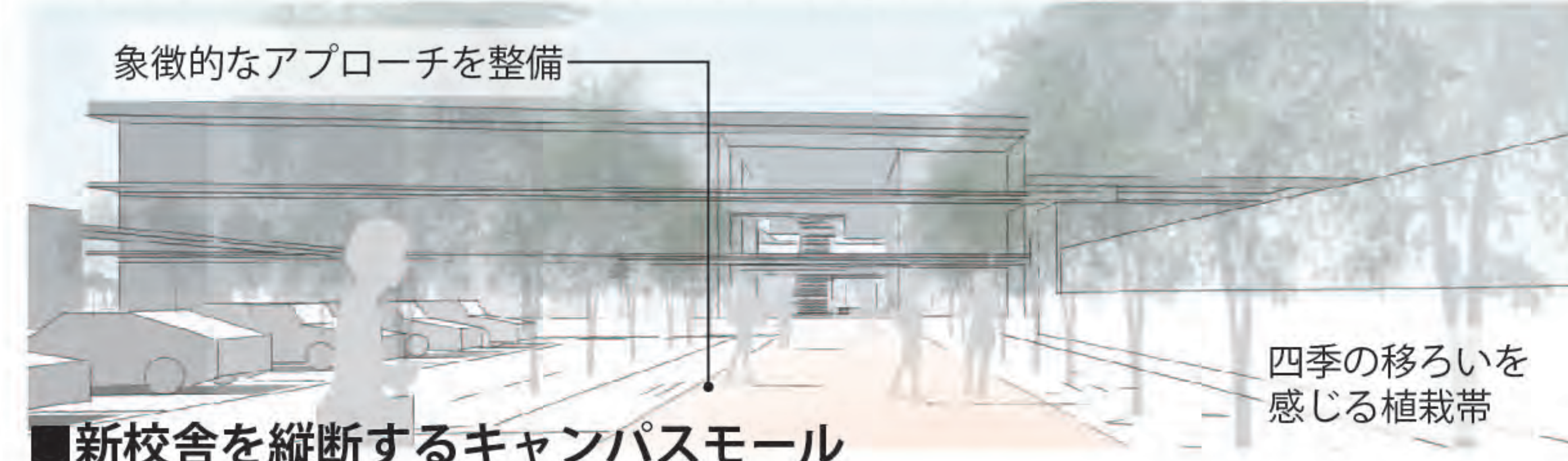
## ■既存施設・周辺地域との関係性に配慮した配置計画

- H35・36年度は既存校との学校運営上、**重複期間が生じる**ことから、利便性と安全性に配慮した配置計画を行います。
- 体育館へは、北校舎を介さずアプローチ出来る**仮設渡り廊下**を整備します。
- 北校舎と新校舎は各々の機能確保と共に、**圧迫感の緩和・低減**を図り、**適切な離隔距離**を確保します。
- 新校舎及び将来の新体育館共に、西面道路から十分な離隔を確保し、周辺住宅地や校地内での**日影の影響が少ない**配置計画を行います。
- 夏季においては**プールでの水温確保**への影響も少ない配置とします。

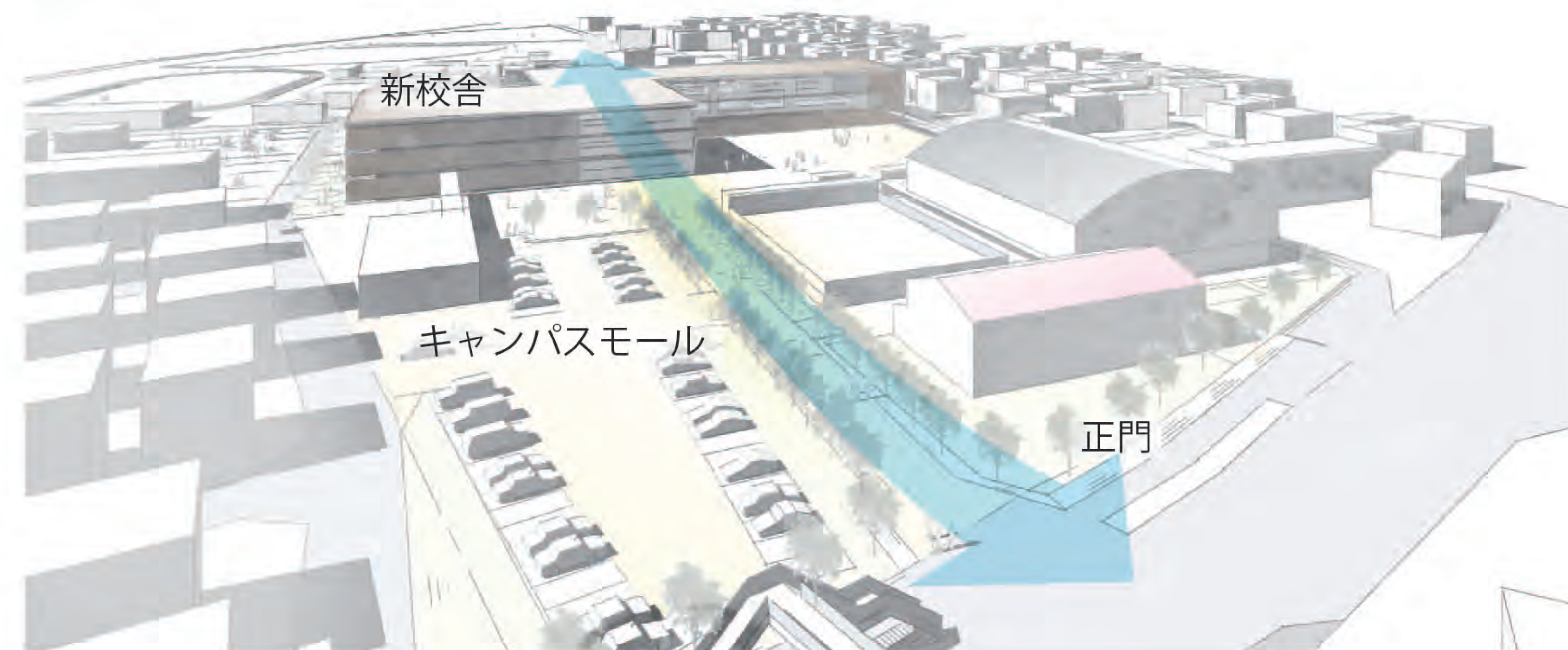


## ■既存のアプローチを活かした配置計画

- 既存の正門、アプローチ動線は**歴史の継承**として継続利用し、軸線上に新校舎の正面を重ね合わせ、未来へつなげるアプローチ空間とします。
- 既存の外構は再整備を基本とし、植栽計画等については農業科の生徒の手により行い、**母校への愛着**がわく提案とします。
- キャンパスモールには**四季の移ろい**が感じられる植栽計画とし日陰日向にはそれぞれ特性のある植栽帯を計画します。



■新校舎を縦断するキャンパスモール

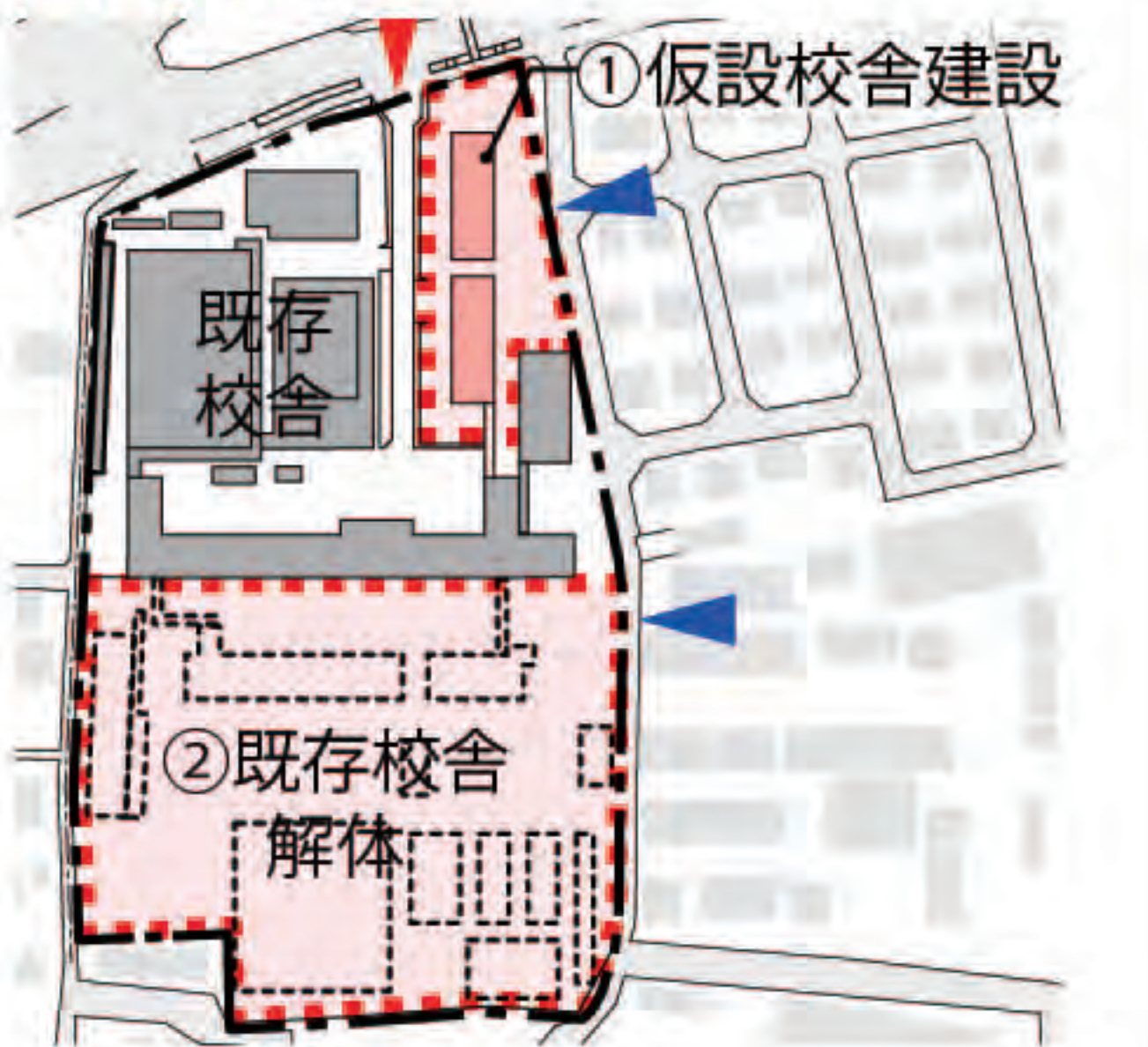


## ■学校運営に配慮した安心安全な工事計画

本事業は仮設校舎建設時、新校舎建設時、北校舎解体時までが大きな工事区分となり、足掛け7年を要する長期プロジェクトのため、最後まで安心安全に事業が進む計画を事前に検討し、問題があればその課題を**抽出、共有、解決**することが重要となります。

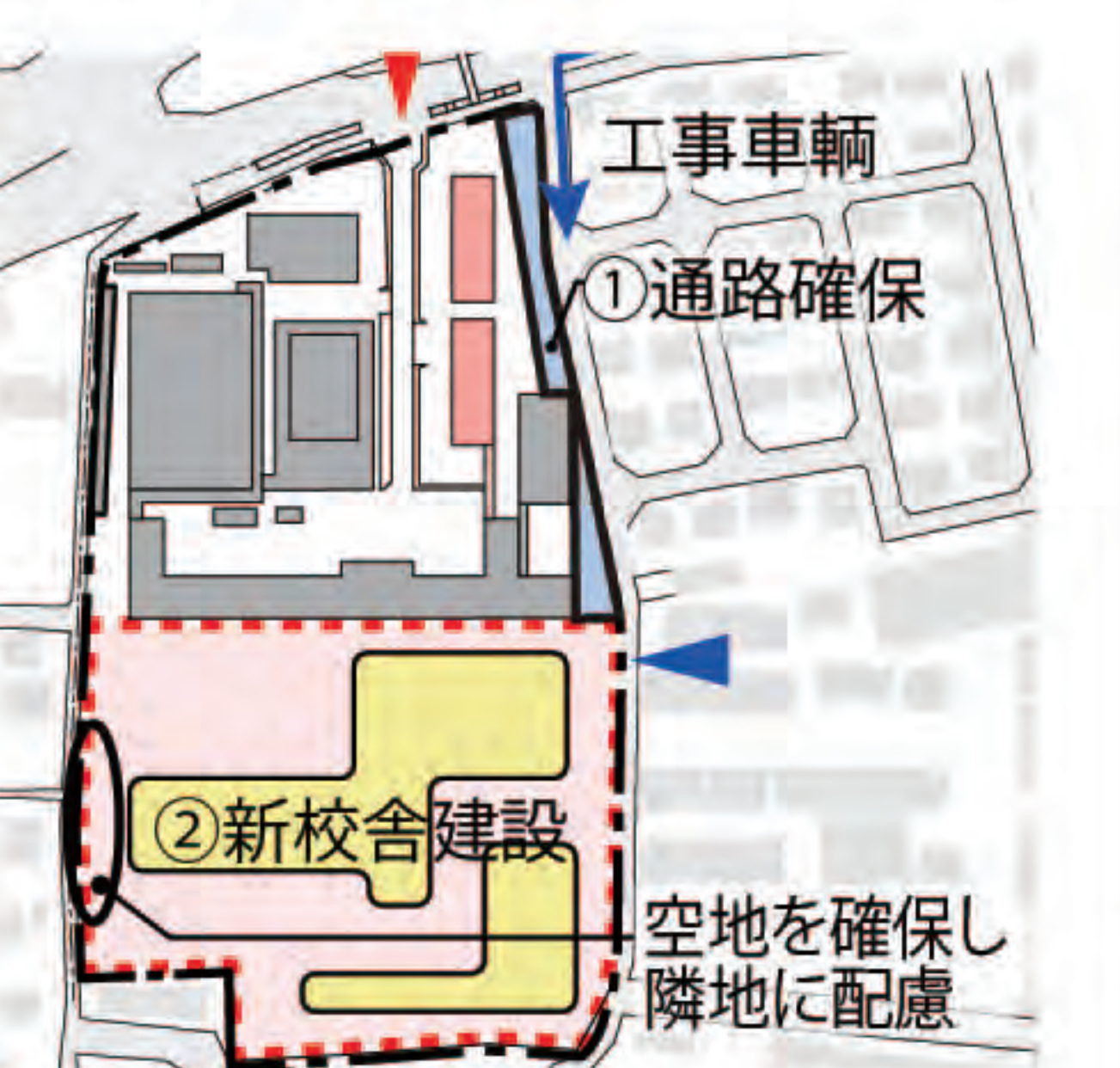
### 工事フェーズ1：仮設校舎等建設・南校舎等解体

- 北東エリアに仮設校舎等を**コンパクトに配置**し、北校舎とは仮設渡り廊下で接続します。
- 仮設校舎等供用開始後、南校舎等の解体を行います。解体後の整地レベルなどは、購入土や処分土を勘案し、後の**新校舎工事での地業費低減**への方策も検討します。



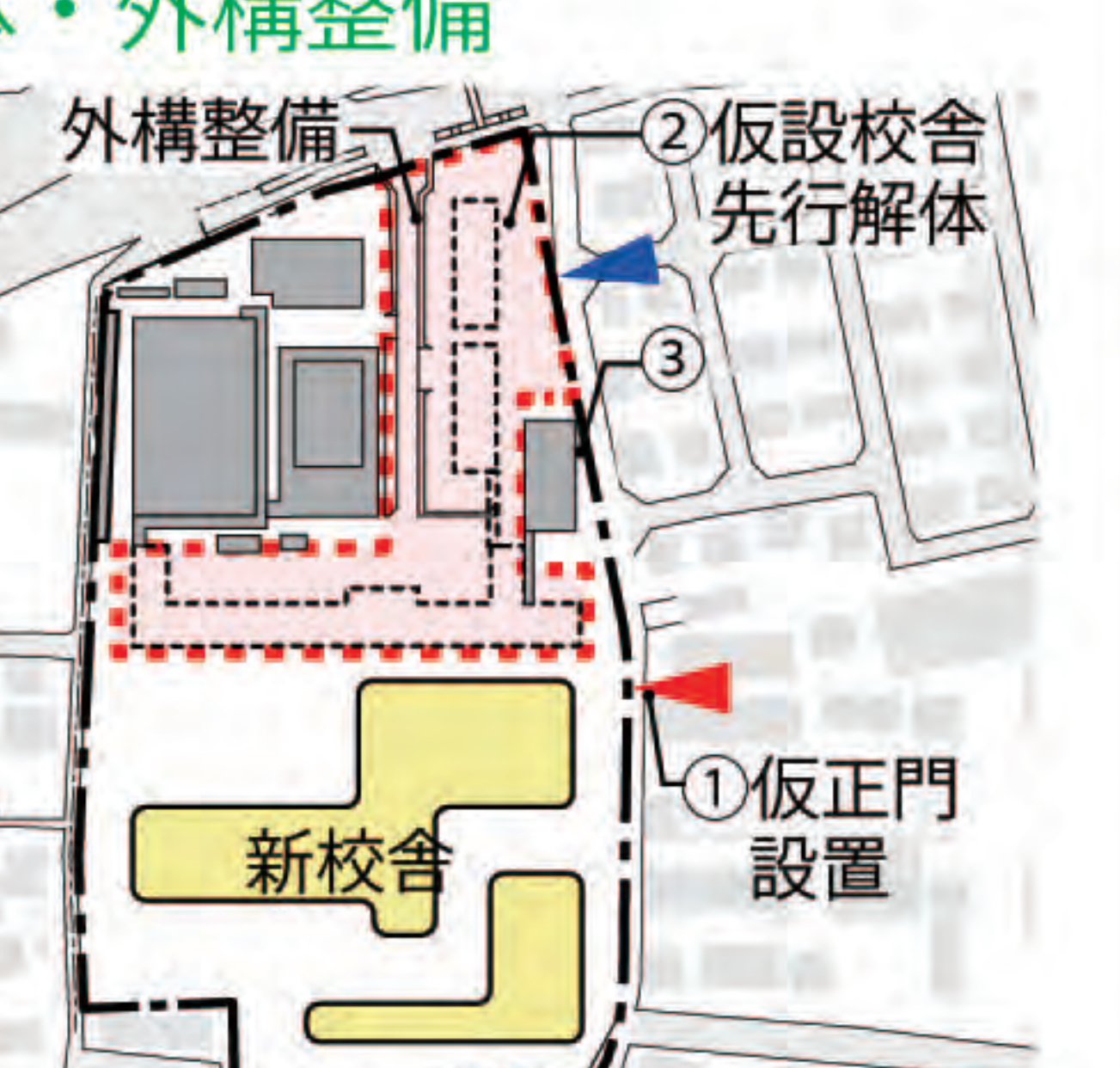
### 工事フェーズ2：新校舎等建設

- 東面町道を工事用の主動線と設定し、狭路を回避するため**校地内に工事用通路空間を確保**します。
- 近隣の騒音や振動抑制へ配慮し、RC造の校舎は**エリアの中心部**に寄せ、周辺地域への影響を抑えます。
- 工事車両動線と生徒動線は明確に区分し安全性に配慮します。



### 工事フェーズ3：北校舎、仮設校舎解体・外構整備

- 新校舎の仮正門を東側に設け、**解体工事動線との明確な区分**を行います。
- 仮設校舎から優先的に解体を行い、当該部分は今後の北校舎解体時の**作業ヤード**として活用します。
- 新校舎エリアへは解体工事の影響が極力出ないものとし、新校舎のスムーズな**運営移行に配慮**します。



## ■地域ブランドの構築を実現し体現する『農業実習棟』(アグリプラザ)

- 南東部に配置した『農業実習棟』(アグリプラザ)は、②・③エリアと①エリアを繋げる役割と共に、新しい学び舎の**象徴的な空間**として設えます。
- コンパクトかつ有機的に設えた空間は、半屋外空間を有し、**多様な活動の実践の場**となります。歴史ある農場生産物販売会や新たな学科のお披露目の場として多様な使い方を提供します。
- 主要部分は木造**とし、維持管理は生徒なども参画することで実践的な学びのツールとしても機能を果たします。



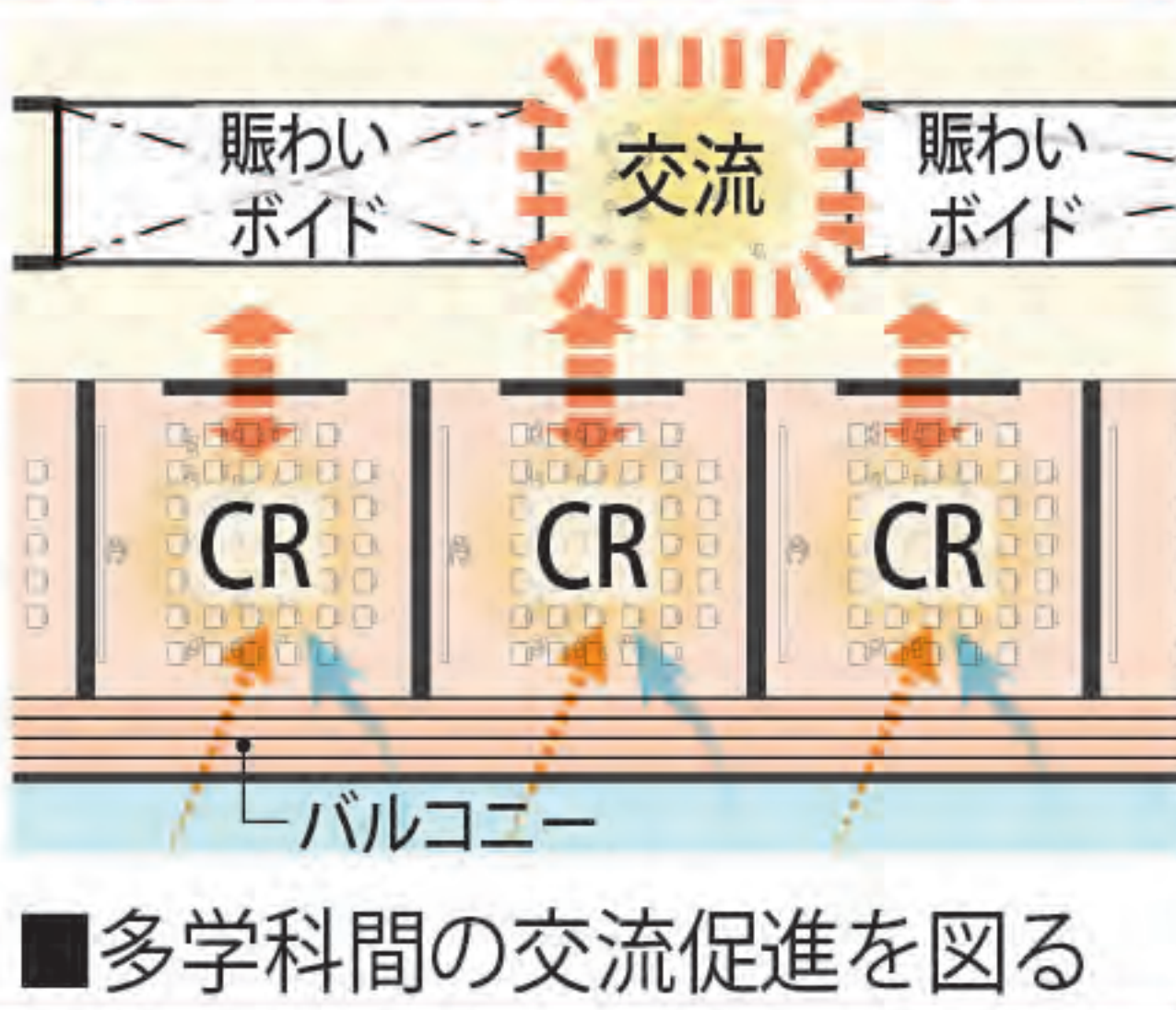
■屋内外の一体的利用を想定したアグリプラザ

# 未来を担う『ヒトづくり、モノづくり』を実現する「南部地区職業教育拠点校」

未来を担う「ヒトづくり、モノづくり」を目指すことは、未来づくりそのものです。それは生徒自身の未来であると共に、地域の未来でもあり、新たな価値観として市場への挑戦でもあります。産業や社会の変化に追従した「グローバルな教育活動」の展開のためには、受身ではないアクティブラーニングの有効性が重要です。能動的に学びを实践し、地域に貢献する人材を生む空間構成を実現するため、**多様なシーケンスを持つ豊かな建築空間**を目指します。『空間』が『閃き』を呼び、『閃き』が『意欲』に繋がり、基本構想で掲げられた生徒の力を引き出します。

## ■学科間連携を促し『交流密度』を高める屋内空間

- 吹抜には『**賑わいボイド**』を設け、全フロアを賑わいで繋ぎ学科間や学年間の交流を促すと共に**通風採光の基点**としても機能させます。
- 学年ラウンジ、ホール、吹抜が全階に渡り連関、**屋内空間の一体感を醸成**します。



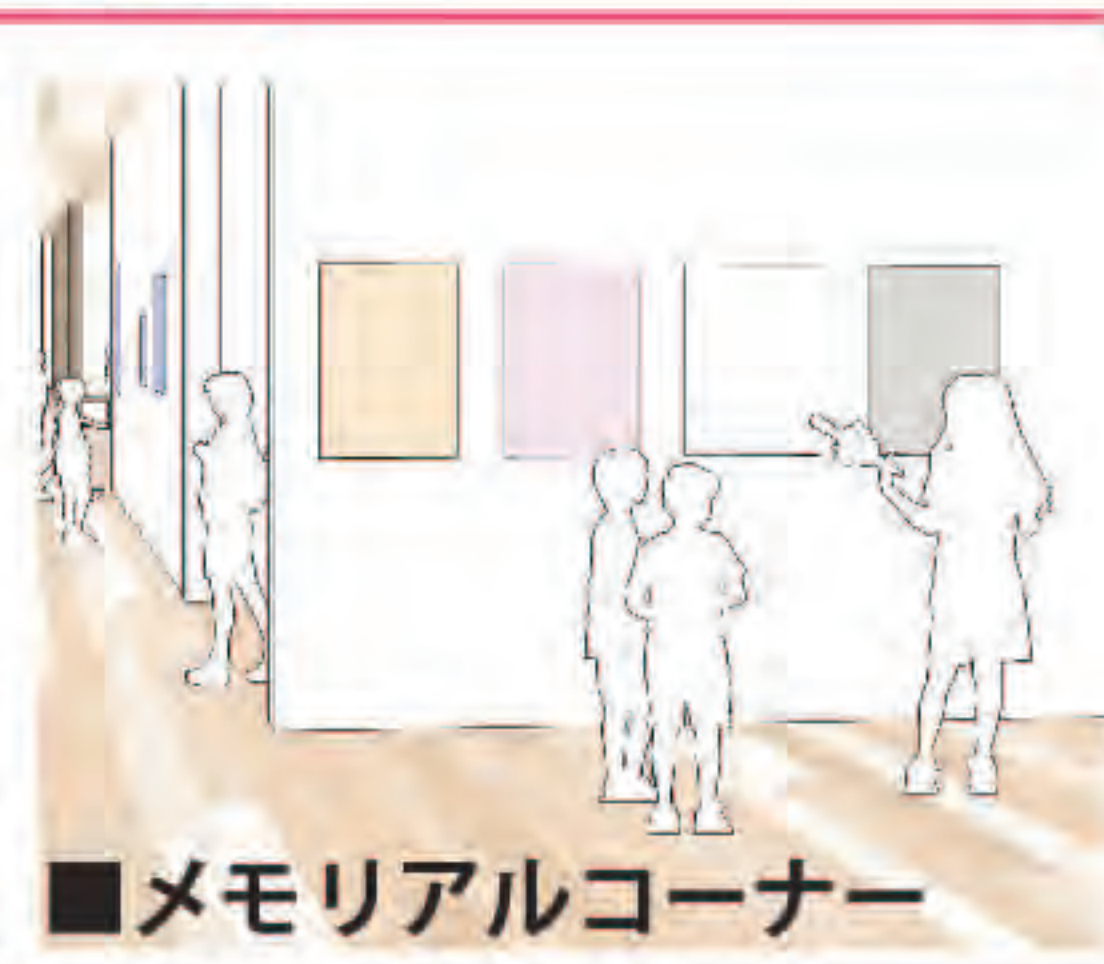
## ■移動が楽しい多様なシーケンスが繋がる学校

- 正門から始まる**コモン軸線**上に、昇降口、ホール、大講義室、図書室などの特色ある諸室を配置します。
- これらを『**キャンパスモール・大階段**』がドラマティックに繋ぎ、学内の**世代間交流動線**を形成します。
- 廊下に面する各教室の壁は、用途上の不具合が生じない場合、出来る限り透過性のあるものとし『**魅せる授業**』『**魅せる収納**』により学内景色として取込みます。



## ■歴史を継承し未来に繋げる学校

- 図書室の一角に**歴史紹介コーナー**を設置し、**1階玄関ホールにも歴史コーナー**を設け多くの方々に継承し未来につなげます。
- ギター部室**は、3階音楽室に隣接させ利便性と他教室への音に配慮した位置とします。



### 特別教室

特別教室は、校舎2、3階北側に集約し、大きな音が発生する音楽室やギター部室は、3階に集約させます。

### 学年ラウンジ

各階の普通教室群の西側に設けられた学年ラウンジからは、蔵王連峰を望むことが出来、生徒の交流や憩いの場として機能します。

### バルコニー

災害時の避難や外装の維持管理、長寿命化に有効なバルコニーを設置します。

### クリエイティブホール

様々な創作活動が可能な、クリエイティブホールを、特別教室群に隣接させ、設置します。

### 大講義室

大講義室は、学科間の連携を考慮し、各学科のほぼ中心となる2階南側に設置します。また、各種研究発表や外部講師の招聘など、開かれた学校の象徴的施設となるようキャンパスモールの延長線上に配置します。

### 食堂・売店

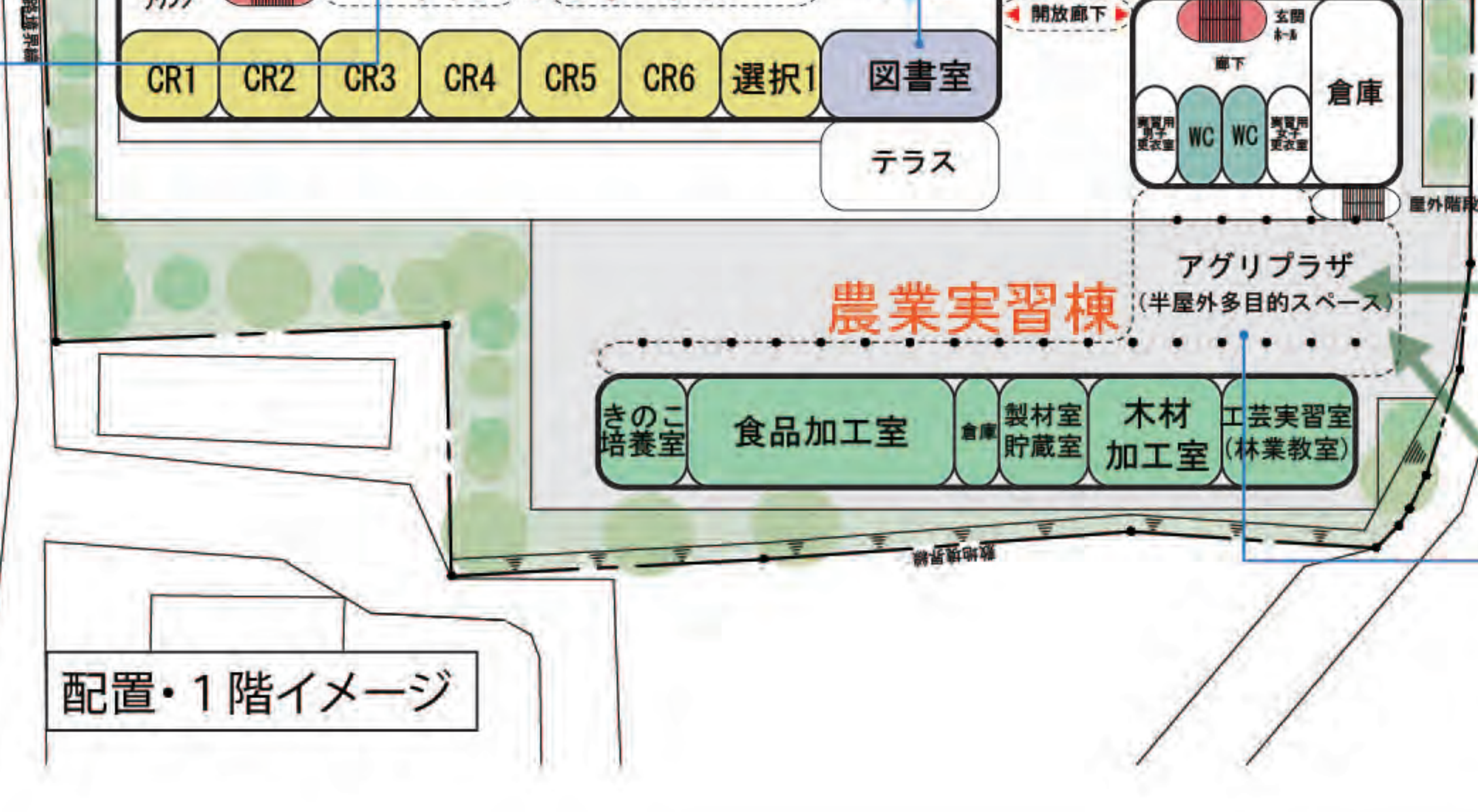
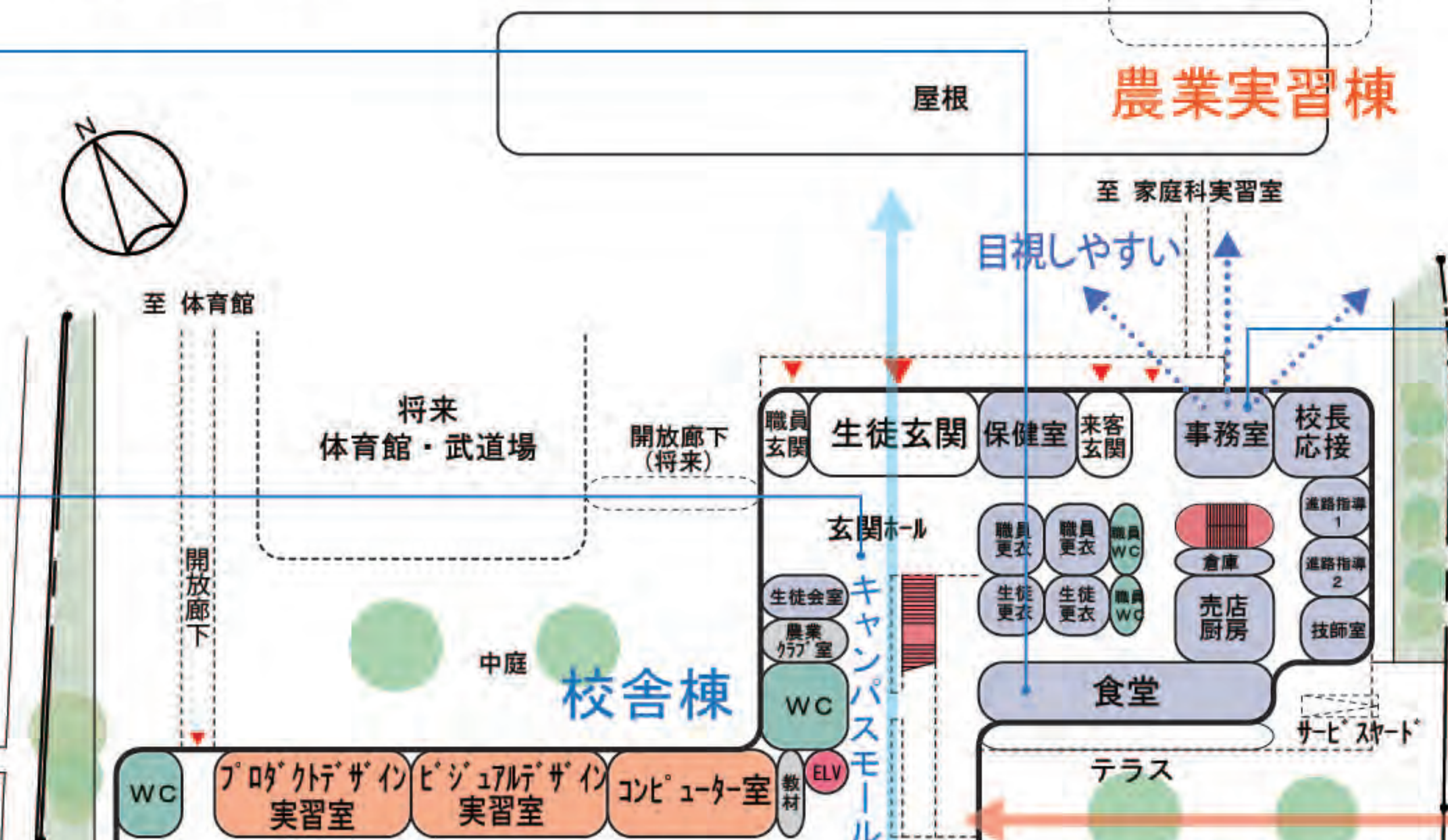
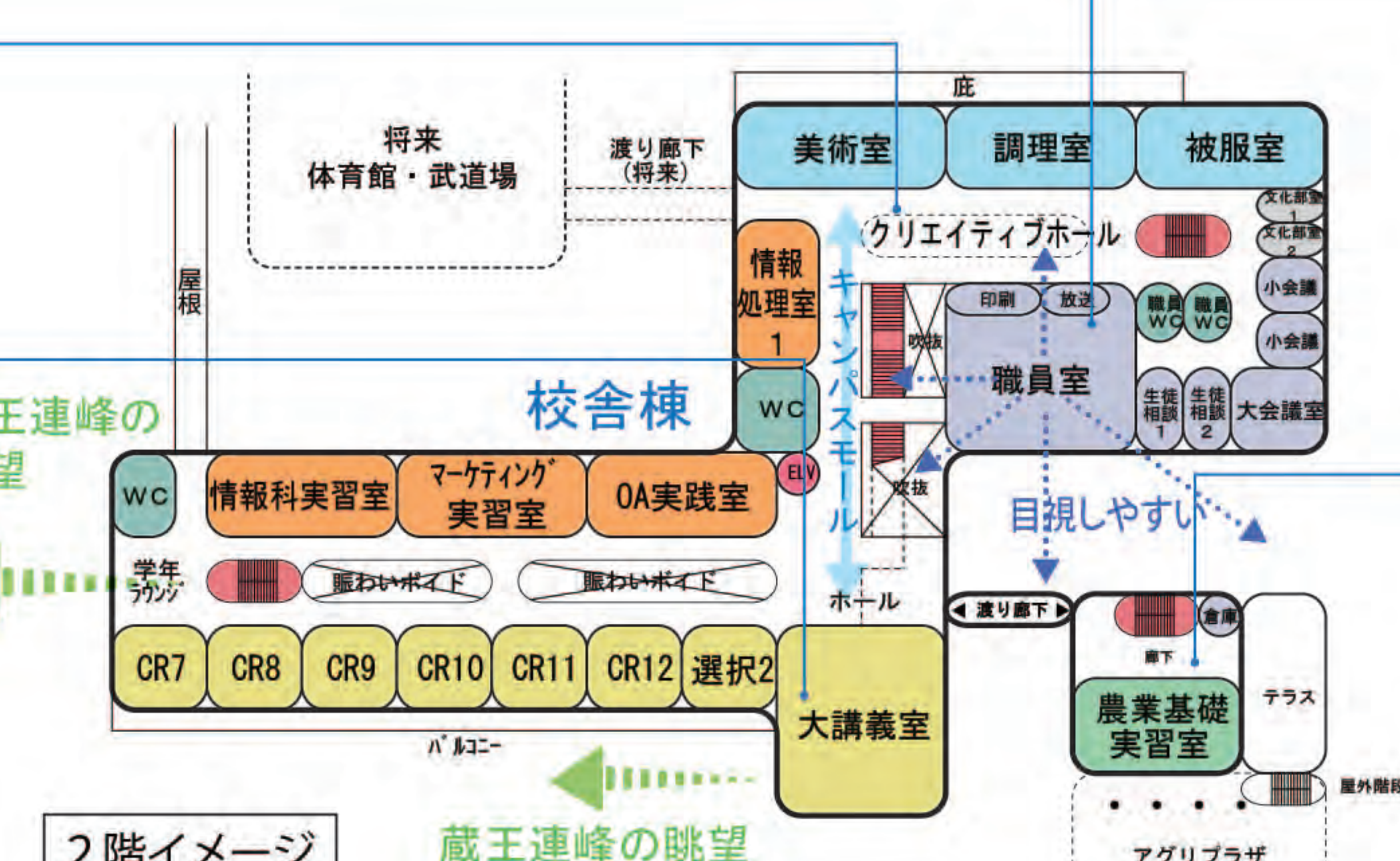
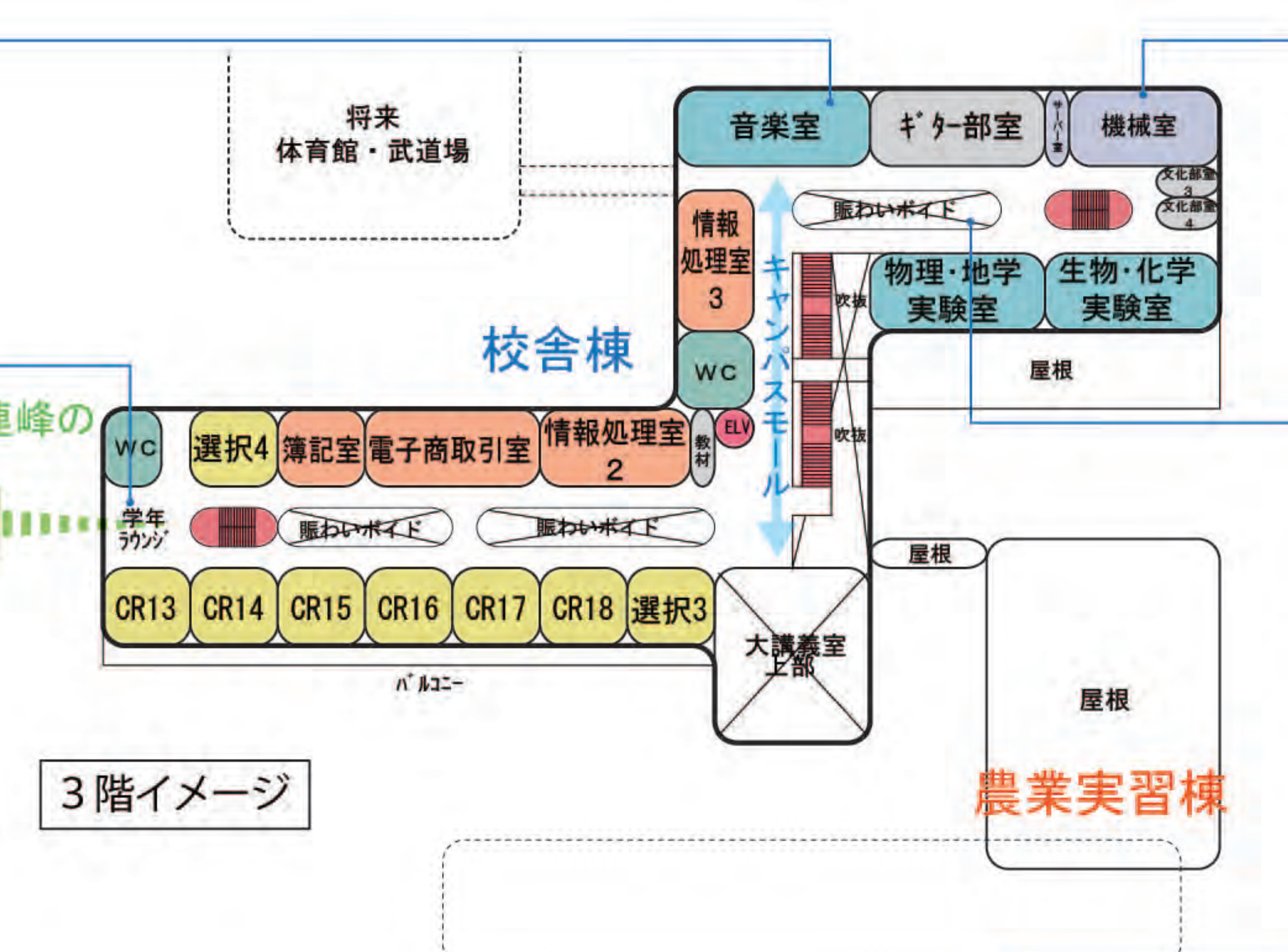
食堂は1階のキャンパスモールに隣接設置します。売店や厨房への食材や物品の搬入に考慮し、東側にサービスヤード設けます。

### キャンパスモール

正門から一直線に続く、明快で開放的な日常動線であるキャンパスモールは、様々な日常の出会いを演出し、各施設機能へと円滑に導きます。

### 学科の構成とキャンパスフォーラム

専門教室は、1階をデザイン系学科、2、3階を商業系学科とし、普通教室の北側に配置します。また、別棟として農業系学科の農業実習棟で構成します。学科毎の纏りがあり、機能的かつ効率的な構成としつつも、各学科間や学年間の垣根を越えた交流や多彩な学習スペースとなるキャンパスフォーラムを普通教室部門の1階に計画します。



### 機械室

防災拠点機能を考慮し、河川の氾濫等の水害に対して強い施設とするため、機械室は3階に設置します。

### 賑わいボイド

各階を視覚的に繋ぐ吹抜空間の賑わいボイドを適宜に設けることにより、学年間や学科間の連携が感じられる空間づくりを演出します。また、これにより建物内部に自然採光、自然通風を積極的に採り入れます。

### 職員室

職員室は、校舎の中心に位置する2階中央部に設置し、目視による校舎内部及び②エリア等の管理を容易にすると共に、生徒との距離を近づけ、親密化を図ります。

### 農業実習棟

校舎への音の問題や実習を中心とした授業形態に機能的に対応出来るよう、校舎とは別棟低層とします。又、校舎からの連絡性や連携に配慮し、2階で渡り廊下と接続します。2階は上足使用とし、1階更衣室でパススルー方式の更衣、靴の履き替えを行い、1階は下足利用とします。

### 校長室・事務室

校長室と事務室は、隣接配置させ、機能連携を図ります。事務室は、正門側の目視管理が可能

### 図書室

1階のキャンパスモール上に学校の歴史を知ることが出来る図書室を配置します。

### アグリプラザ

雨天時でも屋外実習や仕分作業など多目的に使える、上部に屋根を設けた半屋外空間のアグリプラザを設置します。

## ■ユニバーサルデザインを超えた『インクルーシブデザイン』の先導を図る

- 新たな拠点校は次世代の新たな教育環境及び職業観の先導を図ることになります。従来のユニバーサルデザインの概念はもとより、**ヒト・クニ・セダイを超えた全てを包含する概念の実現を目指す教育**が可能となる施設を目指します。これからの『モノづくり』を実践することに繋がります。

## ■安心安全が教育効果向上に寄与する

### <防犯上の配慮>

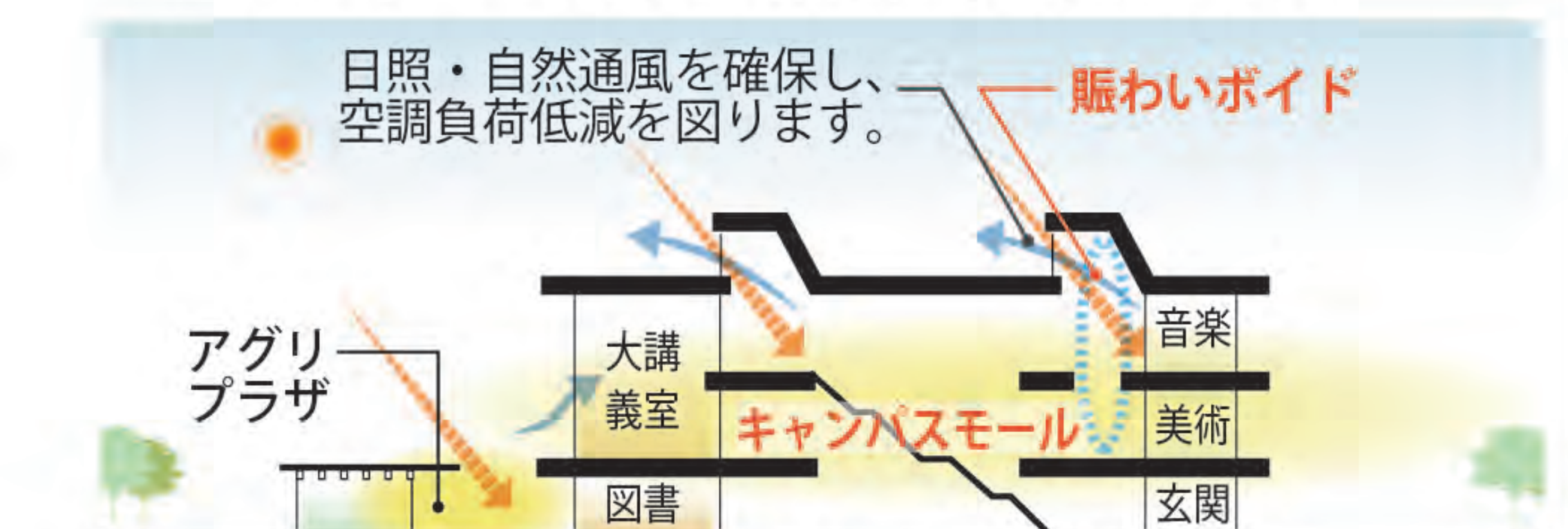
- 生徒、教職員出入口と来訪者出入口は、明確な分離を図り、視認性を向上させ**監視機能を強化**します。
- 職員室は2階に配置し、②③エリアへの**視認性を確保**し広大な校地での異変察知のし易さに配慮します。

### <防災上の配慮>

- 指定避難所**として、その機能を十分に発揮する諸室の配置とします。接地階の主要機械室には**水防扉**を配置し、万が一の**水害時でも機能保持を実現**します。
- 地盤から1階床高さは1mを確保し、階高さは4mとします。これにより2階床レベルは5mとなり、**浸水想定最大5mを回避**します。
- 1階と2階以降の諸室配置は、上記**最大水害時での被害を最小限に抑える**ためのトリアージ的観点で振り分けます。使用不可でも避難所として機能を失わないこと、**復旧などがしやすいことなどを勘案**し、諸室を1階に配置します。このトリアージ的仕分けはワークショップなどを通じて決定していきます。(現在の振分は仮案とします。)

## ■通風採光などに配慮した「賑わいボイド」

- 賑わいボイドは、中間期に緑風を積極的に取入れ、**上昇気流効果による重力換気手法**により、空調機の稼働無しに**学習環境を良好に保つ役割**を果たします。
- 賑わいボイドは、キャンパスモールなどの中央部に配置し下階まで**良好な自然採光を確保**します。



## ■学習環境の向上を担う、賑わいボイド

## ■環境に配慮した環境配慮型校舎

- シンプルな形状によりメンテナンス範囲の縮小、将来的な改修、設備更新も容易とし**LCCを低減**します。
- 高天井はもとより、主要室への**LED照明**や便所などは**超節水型衛生器具**を採用し**水光費用削減**します。
- 屋根や外壁には、**高断熱材**の採用、開口部は**複層ガラス**の採用等、**結露防止**や**暖房効率向上**を図ります。
- 太陽光や雨水、**地中熱(アースチューブ)**の活用等、**新エネルギー導入**も検討し**環境配慮型校舎**とします。
- 省エネ効果は、校舎内モニター等により『**見える化**』を図り生徒教職員の**エネルギー削減意識を高め**ます。